

酪農ヘルパー情報



平成30年度一般社団法人酪農ヘルパー全国協会会長表彰受賞者の皆さん

今号の内容

(1) 平成 30 年度酪農ヘルパー事業中央研究会

- ◆基調講演 土屋 政幸氏
オリオン機械株式会社酪農事業本部 CS グループ技師
越田 健太郎氏
オリオン機械株式会社酪農事業本部東日本サポートセンター長
- ◆事例発表 小島 友喜氏 株式会社 ASAHI サポートセンター専務
木戸場真紀子氏 葛巻町酪農ヘルパー利用組合専任ヘルパー
矢野 琢也・愛氏 酪農家・元酪農ヘルパー
- ◆平成 30 年度会長表彰受賞者一覧

(2) 酪農ヘルパーの職業認知度向上活動用リーフレット

(3) 平成 31 年度酪農ヘルパー養成研修開催日程のお知らせ

(4) 「新・農業人フェア」東京・大阪の会場でブース出展

—— 搾乳機器の取り扱い、道東地区におけるヘルパー事業などを紹介 ——

平成30年度酪農ヘルパー事業中央研究会が開催

平成30年12月4日（火）、東京都千代田区の日本教育会館で平成30年度酪農ヘルパー事業中央研究会が開催され、各都道府県の利用組合や中央団体関係者など約100名が出席した。

研究会では、はじめにオリオン機械株式会社酪農事業本部より「ヘルパー作業における搾乳機器の取り扱いと注意点」と題した基調講演があり、CSグループ技師・土屋雅幸氏より「搾乳器具の取扱方法」について、東日本サポートセンター長・越田健太郎氏より搾乳ロボット「MIone」について、それぞれ説明があった。

土屋技師は「搾乳はチームプレーです。プレーヤーである牛を人間が監督としてコントロールし、用具係としてそれをサポートのが我々の仕事」として、それぞれの役割と作業の流れを解説した。一方、土屋技師越田センター長は同社が取り扱う搾乳ロボット「MIone」について、酪農ヘルパーの立場から見た操作・管理のポイントを紹介し、何か問題があった場合、必ず酪農家に相談することの重要性を説いた。

事例発表では、北海道道東地区における酪農ヘル

パー事業について「株式会社ASAHIサポートセンター」の立ち上げから今後の展望までを同社専務の小島友喜氏が紹介した。

続いて、岩手県葛巻町で活躍する女性ヘルパー・木戸場真紀子氏が「地域酪農を支える人財になるために」と題して、葛巻町で働き始めた経緯から現在の取組みを紹介。そして酪農ヘルパーの仕事を通して地域に貢献できる「人財」を目指すという強い想いを述べた。

酪農ヘルパーから新規就農した矢野琢也さんは兵庫県でのフリーター生活から独立するために北海道で酪農従業員として就職。酪農の魅力にとりつかれ、新規就農を志す。その過程で酪農ヘルパーとして経験を積みながら、妻・愛さんとの出会い、2017年に無事就農するまでを振り返った。

◆「要員不足の現状と認知度向上の推進」 全国協会・砂金会長

開会に先立つ主催者挨拶では、酪農ヘルパー全国協会・砂金甚太郎会長が2018年に相次いだ自然災



会場を交えた意見交換会



害について冒頭で「被害にあわれた方々にお見舞い申し上げますとともに復興にご尽力されている方々に敬意を表する次第」と述べた。



砂金会長

続いて「全国の酪農ヘルパー要員数は1,888名と昨年から22名減っている一方で、一戸あたりの年間利用日数は昨年より0.3日増の22.8日（全国平均）。利用日数が増加する中、多くの利用組合は酪農ヘルパーの確保に大変苦労している」と要員不足の現状とそれに向けた対策を喫緊の課題に挙げた。

そのうえで、「国からはさまざまな支援をいただいている。昨年の学生インターンシップの実施に加え、酪農ヘルパーの認知度向上のための推進事業にもつながっている」と要員確保に向けた取組みに感謝を述べた。

◆「認知度向上の取組みは継続することで効果が 高まる」農水省畜産企画課・古庄課長補佐

来賓挨拶をした農林水産省畜産企画課の古庄宏忠課長補佐は、「持続可能性が注目される中で、我が国酪農についても生産基盤維持のために対策が必要。農林水産省では生産性向上や経営力強化とあわせて働きやすい環境確保のために酪農ヘルパーの利用拡大を支援しているところ」と国による取組みを説明した。

酪農ヘルパー事業に関しては「学生インターン



古庄課長補佐

シップの取組み支援に加え、酪農ヘルパーの認知度向上に取り組んでおり、こうした取組みは継続的に実施することで効果が高まっていくと考えている」と述べると同時に「就業した後の定着が大切。一人前になるまで温かい目で育てていただきたい」と関係者によるフォローを求めた。

基 調 講 演

ヘルパー作業における 搾乳機器の取扱いと注意点①

搾乳器具の取扱方法

オリオン機械株式会社酪農事業本部
CSグループ技師 土屋 政幸 氏



◆搾乳作業をスポーツに例えて考えてみる

搾乳をスポーツで例えてみましょう（図表1、2）。メインとなるプレーヤーは生産する牛です。人間が監督として牛をコントロールし搾乳を行います。その際に使用する用具が搾乳機器で、我々はそれをサポートする用具係です。搾乳はチームプレーですからコミュニケーションが大切です。フィールドは搾乳を行う場所です。環境を良好に保ちましょ

図表1



図表2



う。最後はスコアブックに記録を残します。
作業の流れとしては次の通りです。

①ミーティング：注意牛を確認

②搾乳器具の殺菌洗浄

③使用する機材の準備：ミルカー以外にも搾乳に伴うさまざまな道具を準備します。

④搾乳器の準備：フィルターを取付、配管を切り替える、等の準備を行います。準備ができた搾乳器を持って牛舎に移動します。その時に真空圧真空ポンプ、パルセーターの動作に異常がないか、確認が重要です。

⑤搾乳開始：搾乳の作業は、いろいろ手順がありますが、前搾り、殺菌、ディッピングです。まず拭き取りをして、次にユニットを装着し、バランスを維持する。最後に機械あるいは人間が目で見えて離脱のタイミングをはかって外す。後処理としてポストディッピングをします。

⑥搾乳終了：使用した搾乳ユニットを処理室に移動して、汚れを落とし洗浄装置に付けます。レシーバージャーの中に残った牛乳をバルククーラーの中に送り、ミルクフィルターを外して搾乳状態から洗浄状態に切り替えます。洗剤の量を確認して、洗浄を開始。使用した機材の洗浄と片付け、次の搾乳の準備・補充・点検します。

⑦記録・報告：注意牛を記録し、補充が必要な資材を報告します。

◆基本の徹底が効率改善の第一歩

最初のミーティング＝作戦会議です。注意事項の確認、役割分担の明確化、突発事項への対処方法など、搾乳作業の準備の確認をします。

使用する機材の準備です。バルククーラーは搾った牛乳を低温に保ち乳質を落とさないための装置です。脂肪分離防止と温度の均一化を目的とした攪拌装置が付いています。使い方の注意事項です。搾乳開始前に抜き取り用のバルブを閉め、ミルカーから送ってくる配管経路を確認します。基本的には生乳が攪拌機の羽に届いてから運転を開始します。供給のタイミングを見計らってタイマーをセットし、搾乳の前にスイッチを入れるという手法もありますが、動いているかどうか必ず再確認しましょう。

搾乳前の洗浄ですが、牛乳は乾いてしまうとなかなか落ちにくいので、ローリーで集乳していった後、速やかに流水でタンクの中を濯ぐことが重要です。これにより後に投入する洗浄液の効果が十分に発揮されます。洗浄の際はメガネと手袋の着用をお願いします。洗剤は非常に強力です。目に入ると失明の危険もあります。大型のバルククーラーは、中に入らないと手洗いでできないため、万一電源が入り作業中に羽が回ると非常に危険です。作業前にブレーカー、電源を落としてください。

自動洗浄をかけているときはバルクの蓋を閉めておかないと洗浄液が外に飛び出ることがあります。

洗浄の効率を上げるために、洗剤の濃度と洗浄液の温度を確認します。

搾乳の準備です。使用する道具は所定の清潔な場所に保管します。整理整頓、不足分は補充、作業スペースにもものを置かない。いずれも基本的なことですがなかなかできていない現場も多い。こういったことの改善が全体の搾乳の効率を上げる第一歩です。

ミルクフィルターの取付、牛乳を送る送乳配管の

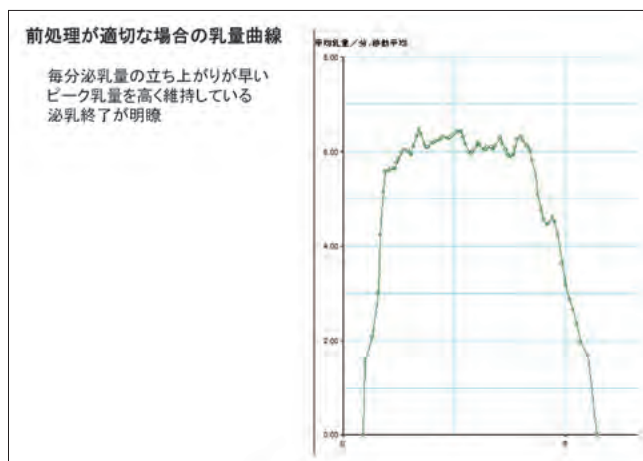
図表3



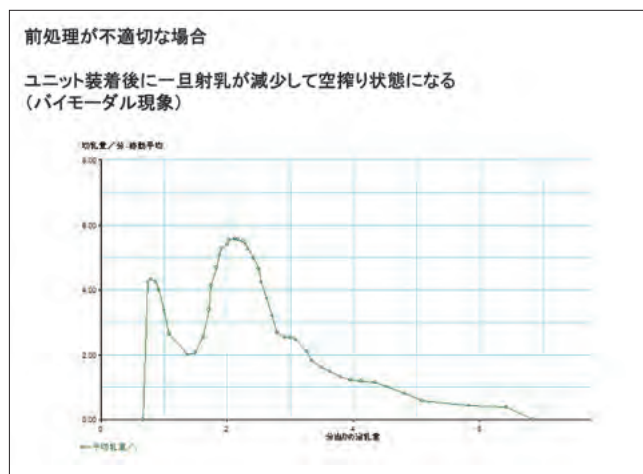
切替といった準備をして、いよいよ搾乳器のスイッチを入れます。この時、真空計の針が適正な値にあるか、パルセーターや搾乳ユニットから漏れ、あるいは異常な音がしないか。搾る前に確認します。

ユニットは一回搾った後に下向きで持ち歩くと床が汚れるため上向きで移動してください（図表3）。

図表4



図表5



図表6



次に実際に牛にタッチします。まずは前搾りです。前搾りの目的は異常乳を発見し、細菌数の多い乳頭槽内の牛乳の排出、乳頭に刺激を与えオキシトシンを分泌させることです（前頁図表4、5、6）。前作業の手順はお客さまに合わせていただくことが基本になります。

ユニットの装着です。ライナーはN字型に曲げて空気流入を避けながら乳頭に付けます（図表7）。

図表7



吸気音、ライナーズリップと呼ばれる現象とそれとともにうドロップレッツという現象が起こることがあります。

ライナーズリップにはさまざまな原因があります（図表8）。アライメントがねじれている、傾いている、搾乳の後半に乳頭がしぼんでそこから空気が入ってしまう。ライナーが劣化している。このような場合に発生します。また、配管の一部でエア漏れがあって、クローの内圧が下がっているなど機械

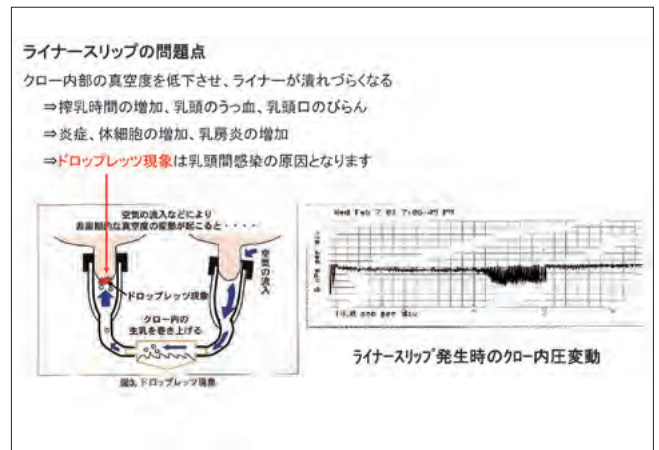
図表8



の不具合が原因の場合もあります。

ライナーズリップによってドロップレッツが起こります（図表9）。これは流入した空気がクローの中に残っている牛乳を乳頭に吹き付けるという現象です。仮に乳頭がなんらかの細菌に感染していた場合、乳頭間の感染を起こす可能性があるため注意が必要です。

図表9



搾乳作業後はユニットの汚れを落とし洗浄機にセットします。ミルクフィルターを取り外して牛乳の状態を確認し、ブツ等がついていたら酪農家さんに連絡します。ミルクフィルターは一回ずつ交換してください。搾乳器によっては分解洗浄が必要なタイプがあります。こういったコック付きポンプの場合、自動洗浄できませんので必ず手洗いで洗浄していただきます。

最後に、搾乳で変わったことがなかったか記録を残します。

◆ミルカーシステムの診断資格認証制度

私どもオリオングループでは、今年度、酪農ヘルパーを対象とした、ミルカーシステムの診断資格認証制度をスタートしました。主な目的は三つあります。①月1回の搾乳機械チェックによって不具合を早期に発見し、それに起因する乳房炎を予防する、②バルククーラーを含む衛生機械のチェックにより、乳質の向上に寄与、③認証制度による酪農ヘルパーのモチベーション向上を図る。またミルカーやバルク点検事業、将来的には機械の修理業務も取り込むことによってユーザー様に対して迅速にサービスを提供していきます。

基 調 講 演

ヘルパー作業における 搾乳機器の取扱いと注意点②

搾乳ロボット「MIone」

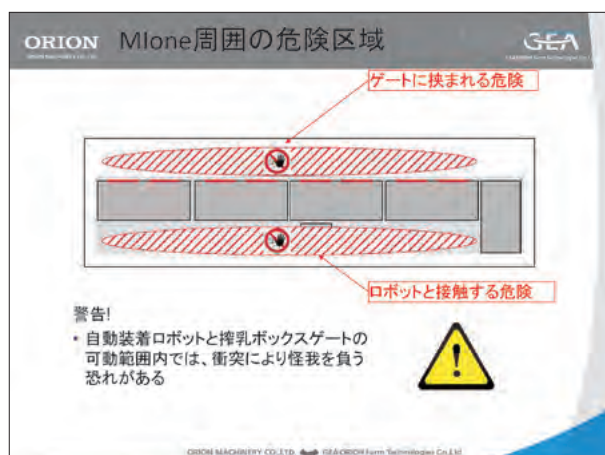
オリオン機械株式会社酪農事業本部

東日本サポートセンター長 越田 健太郎 氏



ドイツ・GEA社の自動搾乳ロボット「MIone」についてご紹介します。「MIone」は「搾乳ボックス」の増設により最大5頭同時搾乳が可能です。

搾乳ロボットにはけがを負う恐れがある危険区域が存在します。2種類の非常停止装置が付いているため、搾乳中でも危ないと思ったときは停止して構いませんが、スイッチによっては搾乳中にロボットから牛が抜け出すということにもなりかねません。状況をよく見て使ってください。また、万一作動するような事態になってしまった場合は、念のため酪農家さんに連絡してください。



搾乳作業はほぼすべてロボットが自動で行うため、酪農ヘルパーの皆さんには次のような搾乳作業の確認をしていただきます。

・フィルターの交換

必ず手動で交換します。酪農家さんにタイミングと交換方法を確認してください。

・データの確認

データを確認し搾乳ボックスに入ってこない牛を追ってやる必要があります。どの牛を追うのか、待機時間がどのくらいになったら追うのか、追い方は

どうなのか、酪農家さんに確認してください。

・カメラセンサーの清掃

乳頭を探し出す3Dカメラセンサーの掃除です。水拭きをして汚れを落とした後から拭きをします。



・クラスターの確認・清掃

1日に2～3回程度清掃します。

・クラスター装着アームの点検

拭き掃除+銀色の筒の部分にシリコンスプレーを吹きかけておきます。

・濃厚飼料給餌器の動作確認

搾乳ボックスの中にあるステンレスボックスに、濃厚飼料が間違いなく落ちていることを確認します。

・ディッピング剤の確認

グレーチングから霧状の黄色い物体が舞い上がります。これが出ていない場合は掃除が必要です。

・設定真空圧の確認

おおむね43kPa前後ですが、調整されている場合がありますので、酪農家さんに確認してください。

・システム洗浄の確認

システム洗浄が行われていることを確認します。

牛群全体の2割ぐらいロボットを装着できない牛がいます。そういう牛については、酪農家さんの指示にしたがって手動装着作業をしてください。

「搾乳ロボット」はほぼすべてをコンピュータで制御しているため、よくわからないまま操作すると搾乳がストップするなどの不具合が発生します。酪農家さんの指示に従って操作するということは徹底してください。

事例発表①

設立の経緯と 酪農ヘルパー事業の取組み

株式会社ASAHIサポートセンター
専務 小島 友喜 氏



株式会社ASAHIサポートセンターは昨年7月に設立し、一年が経過しましたので設立の経緯と今後の取組み目標についてお話しします。

◆地域の概況

株式会社ASAHIサポートセンターがある別海町は北海道東部に位置する酪農と漁業が盛んな町です。

当社は道東あさひ農業協同組合（以下：道東あさひ農協）の組合員を対象として事業を展開し、現在、462戸が加入、別海町と根室市に出役しています。

道東あさひ農協は平成21年4月に根室管内の4農協（別海町3、根室1）が合併して誕生しました。

平成29年度の生乳生産量は35万4千t。生乳出荷戸数527戸。一戸あたりの平均出荷乳量は672tです。合併当初と比較して農家戸数は120戸ほど減っていますが、生乳生産量は約16%伸びています。

◆会社設立の背景と経緯

平成27年に組合員に意向調査を行った結果、そのまま手を打たなければ農家戸数が減って、地域の生産力も落ちていくことがわかりました。そこで地域農業振興計画の最重要取組み事項として営農支援体制の充実を掲げ、道東あさひ農協と道東あさひ酪農ヘルパー利用組合の共同出資により、平成29年6月、株式会社ASAHIサポートセンターを設立しました。

設立の経緯です。平成21年の農協合併に向け、それぞれの農協が抱えていた生産者組織を合併までにすべて統廃合することとしていましたが、酪農ヘルパー利用組合だけまとめきれず、29年5月まで旧

農協単位のまま4つの利用組合が運営されていました。

まとまらなかった原因は運営形態や料金体系、サービス体制にかなりの差があったこと。さらに合併当初はヘルパー要員が確保できていたことがあげられます。しかし、ヘルパー要員が減ったことから、特に中小の家族経営の農家を中心に、必要な時に対応できる態勢にしてほしいという意見が出され、組合員の営農支援を目的とした農協の子会社として立ち上げることとなりました。

旧利用組合それぞれの取組みについてはそれまでの経緯を尊重し、事業を進めていく中で段階的な見直しをしていくこととしています。

◆酪農ヘルパー事業の取組み

図表1が会社の機構です。役員は取締役4名と監査役1名、計5名です。総務部、営農部の2部体制で、営農サポート部は酪農ヘルパー課とコントラ課。酪農ヘルパー課では各支部に社員を配置しています。なお、上春別支部については合併前より中標津町にある有限会社ファム・エイに委託をしています。

図表1



図表2：ヘルパー員の人数

平成30年3月末現在

支部名	ASAHI	ファム・エイ	補 助	後継者	平成29年末
上春別		6.5名			6.5名
西春別	5.0名		2.0名		7.0名
別 海	9.0名		4.0名	2.0名	15.0名
根 室	5.0名		6.0名		11.0名
合 計	19.0名	6.5名	12.0名	2.0名	39.5名

図表2は現在のヘルパー社員数です。左が支部名で、その隣がうちの社員です。合計19名います。

(有) ファム・エイとは年間6.5人の契約をしています。また補助ヘルパーが12人。このほか別海町で2名が後継者ヘルパーとして登録されています。

昨年9月、別海町の(有) 道東ファームサポートがヘルパー事業から撤退し、同地域の要員数が大幅に減少したこともあり、新・農業人フェアや企業説明会等々に参加しました。ブースを訪れてくる人の中には酪農ヘルパーという仕事を初めて知ったという方もおり、PR不足を実感しました。

昨年は知人の紹介やインターン、企業説明会、農業人フェア等を通じて10名採用し、そのうち5名が現在も働いています。

酪農ヘルパーの仕事への理解を深めてもらうため、昨年はインターンシップやヘルパー体験として23名の方を受け入れました(図表3)。仕事以外にも楽しみがあることを知ってもらう必要があるといい、一週間の日程でのなかでTMRセンターなどの施設見学や地域のイベントに参加してもらいました。

図表3：インターンシップ・ヘルパー体験受入者数

	男	女	計	採用人数
大学2年		1名	1名	
大学3年	3名	4名	7名	
大学4年	2名		2名	1名
専門学校	1名	2名	3名	1名
高 校 生	2名		2名	
社 会 人	7名	1名	8名	4名
計	15名	8名	23名	6名

◆酪農ヘルパーの待遇

給与は道東あさひ農協事務職と比較して多少高めに設定しています。基本給は年齢給と職能給。さらに職務手当としては5級から1級まであり、経験年

数に応じて手当が支給されます。

業務上必要な資格取得費用は会社で助成します。独自の支援制度として経験や技能といった作業の習熟度合いによって職能手当が上がる「キャリアシステム」という仕組みがあります。

新規就農希望者に対しては、酪農ヘルパー業務に2年間以上従事した後、道東あさひ農協管内で新規就農した場合、農協から就農準備金100万円を支給される奨励金制度があります。また20代後半～30代半ばのヘルパー社員を対象とした農協職員への推薦制度もあります。適性が認められた場合、人工授精師や営農相談員に就業することが可能です(図表4)。

図表4



住宅手当、家族手当、社会保険完備、賞与は夏冬の年2回。さらに燃料手当がつきます。一年以上勤めた人を対象とした退職金制度があります。

休日は月8日、ほぼ週休2日です。年末年始は一週間、もちろん有給休暇も取れます。

◆今後の方向性

一つ目が継続的な人材の確保です。新卒採用者の出身学校との継続的なパイプ作りが必要であると感じています。

二つ目が研修体制の充実です。JA道東あさひでもクラスター事業で搾乳ロボットを導入する農家が増えており、的確に対応できる人材の育成が必要です。

将来的には一人のヘルパーで10戸程度の農家を担当する地域担当制を目指したいと思っています。要員数の確保が必須で、毎年一人ずつでも増員することが大切だと考えています。

事例発表②

地域酪農を支える人財になるために

葛巻町酪農ヘルパー利用組合
専任ヘルパー 木戸場 真紀子 氏



◆関係者一体で酪農を盛り上げる町

私が住む岩手県葛巻町は北上山地の中央に位置する酪農と林業、山葡萄を使ったワイン造りが盛んな町です。また、風力、太陽光など自然の恵みを活かしたクリーンエネルギーの町でもあり、町内の電力自給率は170%とされています。

酪農は生乳生産量90 t / 日、乳用牛頭数12,000頭。町内にはタカナシ乳業、森山乳業、ミルクハウス葛巻など乳業工場があり、生産者、役場、乳業メーカー、農協など関係者が一体となって酪農を盛り上げています。私はこの葛巻町で酪農ヘルパーとして日々走り回っています。

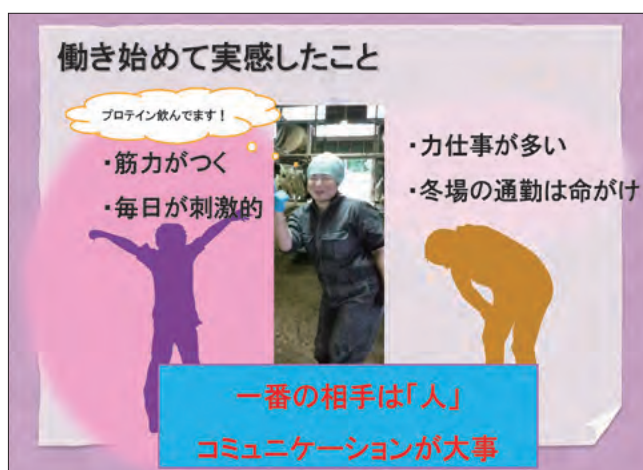
私の所属する葛巻町酪農ヘルパー利用組合の概要について説明します。町内酪農家戸数は118戸、うち利用参加戸数は116戸です。家族経営が多いため、利用率も高くなっています。酪農ヘルパー要員は14名です。

◆酪農ヘルパーに求められていること

図表1は働き始めて実感したことです。特に冬場の通勤は毎回命がけです。今は猛吹雪など通勤が危険な場合、農家さんから必ず連絡をもらうようお願いしています。もっとも実感したのは酪農ヘルパーの仕事の一番の相手は人だということです。酪農家さんもそうですし、ペアを組むヘルパー同士もそうです。この仕事を続けていくに当たり、私自身のコミュニケーション能力を鍛えることがとても大事だと感じています。

18年前当時、他人に牛舎を任せて遊びに行くなんて、という考えの農家さんがほとんどでヘルパーの利用は冠婚葬祭の主でした。また、ヘルパー側も

図表1



町外出身者が多く、まして女性ヘルパーはけがでもしたらと断られることもありました。

酪農ヘルパーは牛が相手の仕事ですが、実際は経営者がお客さんのサービス業であり、信頼関係が基本です。言葉では簡単ですが一朝一夕に築けるものではありません。一回一回の出役で着実な仕事を積み重ねるしかないという思いで取り組みました。農家さんから牛舎がきれいになった、真紀ちゃんなら安心だねという言葉をもらうと自信にもなりました。

やはり酪農の世界は男性中心。女性が働く職場環境としてはいろいろな課題もありました。まずはトイレです。利用組合、酪農家さんの配慮により定期利用農家全戸に簡易トイレを設置していただき、仕事に集中できるようになりました。

次に出産育児です。少し落ち着いたなら復帰したいと考えていました。しかし産休・育休制度はありません。ないなら前例を作る。今でも制度はありませんが、休暇は利用組合の規約等で認められる範囲で取得することができ、職場復帰が可能です。

酪農は家族経営がメインです。そのため家庭環境

と経営は密接な関係にあるといえます。どちらかのバランスが崩れればもう片方のバランスも崩れてしまいます。二つのバランスの調整役が奥さんです。朝早くから牛舎で作業し、自分のことそっちのけで一日中休む暇ありません。そんな奥さんたちに少しでも息抜きをしてもらいたい、休みを取って戻ってくる際の表情が普段より明るいのは確かです。ヘルパーの利用料金は安くありませんが、嬉しそうにお話しされるのを聞いて、私も嬉しい気持ちになります。酪農ヘルパーという仕事に誇りをもてる瞬間です。奥さんたちが元気ならば家庭も安泰、経営も発展していくと信じています。

◆要員確保が課題

近年は高齢化による体力の衰え、世代交代による子育て世代の利用、働き方の意識の変化などさまざまな理由でヘルパー利用の需要は高まっています。若い後継者の奥さんは休日取得のためにヘルパーを利用されることも多いようですが、ヘルパー事務局が対応に苦慮しているのが現状です。ヘルパー側は勤続10年以上の人材も増え、新人の育成に力を入れています。とにもかくにも要員確保が課題です。従来はハローワーク等々で募集をかけていましたが、昨年は直接学校へ出向き、酪農ヘルパーの認知度向上を目的に、仕事内容の紹介等を実施しました。また国の事業を活用し、学生インターンシップの受け入れをしました(図表2)。まずは「酪農ヘルパー」という職業を知ってもらうこと、そして友達や家族に酪農ヘルパーの話をしてほしいという宣伝効果も期待しながら実施しています。地道な取組

図表2



みかもしれませんが、今後も試行錯誤しながら要員確保に努めていきます。

◆酪農ヘルパーだからこそできること

地域の交流活動にも参加しています。子育てと酪農の仕事に追われるお母さんたちが「四葉会」という互助組織を作りました。40年以上の歴史ある組織で、当時は集まって洋裁や料理などをしていたようです。今はお母さんたちの夢でもあったジェラートショップ「クローバー畑」をオープンし、当番制でお店に出ています。

「牛飼い女子会」という女性グループの活動にも参加しています。研修や勉強会、料理教室など役場と協力しながら、活動している組織です。

葛巻町の農地利用最適化推進員も務めています。酪農ヘルパーは酪農家との距離が近く、リアルタイムにさまざまな情報が入ってくるということもあり、町としては便利な存在らしく、数年前から務めています。

葛巻町の方々は縁もゆかりもない私を温かく受け入れて育ててくださいました。娘二人の育児も酪農家さんをはじめ地域の方々に大変にお世話になっています。親子共々葛巻の皆さんに育てられました。これからはお世話になった葛巻に恩返しをしていきたいです。

ヘルパーの仕事の基本は酪農家さんの仕事の代行です。ただそれだけで終わらせるのはもったいない仕事かもしれません。私は酪農ヘルパーを軸に、葛巻町の酪農基盤を支えたい、酪農を盛り上げたい、酪農家さんの離農を少しでも減らしたい、葛巻で酪農を始めたいという人の手助けをしたい、大変な仕事だという認識を変えたい、農家さんの負担を少しでも軽くしたい。これらは酪農ヘルパーだからこそできることだと思います。発表テーマにした「人財」とは日本農業新聞の記事を読み心に残っている言葉です。一般的に使う「人材」は言われたことをこなす人。「人在」はただ職場にいる人、「人罪」は足を引っ張る邪魔な人、「人財」はなくてはならない人、自分で考え行動できる常にどうしたらできるかを考える人。葛巻町の人財になるためにこれからも走り続けます。葛巻町の酪農家さんの笑顔は私のエネルギーです。

事例発表③

酪農ヘルパーから新規就農へ

北海道中標津町

酪農家・元酪農ヘルパー 矢野 琢也・愛 氏



図表1

◆フリーターから酪農従業員

僕は22歳の時に単身で兵庫県を出て北海道に来了。兵庫県にいた頃は、夢も希望もなくフリーターとして仕事を転々としていましたが、自立したいという思いもあり、住み込みで働けるところを探しました。たまたまそのときに酪農に目がいき、3軒の酪農家さんに履歴書を送りました。その中で別海町の酪農家さんに採用していただきました。

牛を全然知らない素人が牛と無駄に張り合い、親方と喧嘩したりとただの生意気な若造従業員でしたが、2年半働かせていただきました。

分娩に立ち会い、新しい命が生まれる感動と胎盤を見て今まで感じたことのないような感情を覚えしました。フリーター時代には感じる事ができなかった命とともに歩む生活。親方の家族と働く酪農の楽しさと喜び。もともと体を動かすことも好きなこともあり、従事して3日目にこれは僕の天職ではないかと思い、本日に至っています。

自分に酪農の知識がほとんどがなかったことや単身で来ているため仲間作りということで、親方に別海町の農業特別専攻科を紹介していただき、働きながら二年間通いました。

仕事を通じ牛の純粹すぎる姿に触れ、地域に仲間ができて、なにより親方のような人になりたい、という思い。いつしか本気で新規就農したいと思うようになっていました。

◆酪農従業員から酪農ヘルパー

専攻科卒業後、新規就農に向けてさまざまな選択肢がある中で、僕は酪農ヘルパーを選びました。その3つの理由があります（図表1）。

専攻科卒業後・・・

- ①それぞれの農場で、**営農形態の違いがある事**に衝撃を受けた
- ②様々な搾乳方法があることを知り、**様々な機材を見てみたい・使ってみたい・触ってみたい**と思う
- ③従業員時代、親方の**機械作業**を見てやりたいと思っていた

上記3つの理由があり、これらを経験できる「**酪農ヘルパー**」になる事を決めた

自分で足を運んで経営形態を見たり、自分がどう運営していくかという知識、経験が得られると思い、中標津町の有限会社ファム・エイで面接を受けました。新規就農希望であることは面接時に伝えましたが、それでも快く採用していただきました。

契約農家の数と展開する地区の広さに驚きましたし、大変なこともたくさんありましたが、こんなに充実した生きた勉強ができることはなかなかないとも思いました。

上記に記載した理由・目的も十二分に経験でき、就農したい地区・場所も見つけることもできました。また多くの方と出会い、仲間ができました。な

図表2

酪農ヘルパーとして ファム・エイに入社

(目的)
・前記で述べた理由3つ
・各牧場の営農実態を直に感じ、自分が牧場主になったときどう運営するか知識経験を得ること

(結果)
・思っていた以上の事を経験することが出来た
・就農したい地区・場所も仕事を通じて見つけることが出来た

「大切なことを学んだ貴重な時間であった」

により妻とも出会いまして、今、こうして一緒に営農しています（図表2）。

◆酪農ヘルパーから新規就農準備へ

ファム・エイ社長の計らいで、計根別農協の方と新規就農をするまでのプロセス、そして支援体制等の話をさせていただくことができました。

新規就農準備のプログラムとして計根別農協管内の農家さんのところに夫婦で研修生として入りました。約1年半の研修期間中に、入植地選び、そして牛舎改修等の打ち合わせも行いました。仕事と打ち合わせの両立は大変でしたが、やはり自分で作っていくというところでは大変充実していた一年半だったなあと感じています（図表3）。

図表3



◆営農開始

事務上ではあるのですが平成28年9月1日が営農開始日となりました。70頭のつなぎ牛舎、初期投資が抑えられ、繁忙期の労働力を減らせることから計根別農協TMRセンターにえさの供給をいただいています。覚悟していたことですが、営農当初、毎日のように繰り返される分娩に気疲れすることもありましたが、妻の存在、さらに兵庫県から自分の家族が来て生活のサポートをしてくれたということもあって、なんとか乗り越えることができました（図表4）。

これは賛否あるかもしれませんが、前の牧場オーナーも同じ敷地内に住んでいます。営農するにあたってのよき理解者であり、なおかつ地域の中でのいろいろ支えていただいているということでもあり、

図表4



たいへんありがたく感じています。

あまり前例はないかもしれませんが、こういう形もあっていいんじゃないかと思っています。

◆今後

営農を開始し3年目となりました。従業員時代や酪農ヘルパー時代の経験を活かして、かろうじてですが、経営の面白さを感じ、反面、難しさというのも今しみじみと感じています。常に成功があるわけではなく、失敗続きのこともあります。そのなかで自分で経営判断ができることも一つの魅力だと思っています。

従業員時代の親方が今も気にかけてくださって、たまに様子を見に来てくれます。前の牧場オーナーも近くで気にしないように気にしてくれています。農協の方々、地域の方々、そしてたいへん多くの方々に支えていただいてここまで来られたということを感じて、微力ながら地域とのつながりを大切に少しでも地域に貢献できたらというふうに考えています。

今は酪農ヘルパーを利用する側となっていることもありますし、今回酪農ヘルパーをお願いして、ここに出させていただいています。自分が農家になった気持ちも踏まえて、今の酪農ヘルパーに助言と自分の経験をしっかりと伝えることは酪農大国・中標津町の貢献にもつながるのかなと思っています。

自立しようと家を出て、北海道に移り住んで形となったところで「北海道に来ないか」という問いかけに二つ返事で来てくれた両親。結局まだまだ支えられっぱなしですが、それでも北海道に来てよかったなと思ってもらえるような牧場を今後も目指していきたいと思っています。

平成30年度 一般社団法人酪農ヘルパー全国協会 * 会長表彰受賞者 *

●酪農ヘルパー事業の推進に貢献のあった利用組合等の役職員

県名	氏名	年齢	所 属 団 体	勤続年数
岡山県	本松 秀敏	67歳	一般社団法人岡山県畜産協会	—

●技術に優れ、酪農ヘルパー就業経験5年以上の者

北海道	田村 政幸	41歳	佐呂間町酪農ヘルパー利用組合	23年
北海道	渡邊 栄	49歳	有限会社浜中町酪農ヘルパー組合	11年
岩手県	及川 洋二	38歳	東部地域酪農ヘルパー利用組合	7年
岩手県	大峯 和幸	35歳	胆江地区酪農ヘルパー利用組合	6年
岩手県	三好 健之	39歳	葛巻町酪農ヘルパー利用組合	12年
福島県	酒井 信	56歳	JA福島さくら酪農ヘルパー利用組合	24年
栃木県	浅井 秀樹	48歳	酪農とちぎ農業協同組合	14年
栃木県	田村 光夫	58歳	栃酪酪農ヘルパー利用組合	10年
岡山県	奥野 信介	33歳	おかやま酪農業協同組合	10年
広島県	前原 隆	44歳	広島県酪農業協同組合	18年
広島県	小野 泰信	51歳	広島県酪農業協同組合	12年
山口県	橋本 雅志	38歳	山口県酪ヘルパー部会	15年
山口県	田辺 可奈	36歳	山口県酪ヘルパー部会	17年
熊本県	田村 基樹	40歳	熊本県酪農ヘルパー利用組合	21年
熊本県	土井 克久	41歳	熊本県酪農ヘルパー利用組合	20年
鹿児島県	堀口 健	45歳	デーリィサポートかごしま	27年

●酪農ヘルパー就業経験1年以上の者であって、新規就農した者

北海道	船橋 真吾	38歳	稚内農協酪農ヘルパー利用組合	12年
茨城県	矢澤 一郎	46歳	茨城北酪農業協同組合	2年
茨城県	杉山 直宏	45歳	けんせい酪農業協同組合	13年

平成30年度は、酪農ヘルパー事業の推進に貢献のあった利用組合等の役職員1名、就業経験5年以上で優れた技術を持つ全国の酪農ヘルパー16名、就業経験1年以上で新規就農した酪農ヘルパー3名、合計20名が会長表彰を受賞し、砂金甚太郎会長より表彰状が授与された。

砂金会長は「受賞された方々はいずれも地域のヘルパー事業推進になくてはならない方々。皆様のこれまでのご功績に心から敬意と感謝を申し上げますと

ともに、今後も酪農ヘルパーの事業に発展に一層のご尽力を賜りたい」と述べた。

受賞者を代表して堀口 健さん（鹿児島県、デーリィサポートかごしま、酪農ヘルパー勤続20年）が「このような表彰式を執り行っていただきありがとうございます。ヘルパー業務のますますの発展に向け努力し、これから30年、40年と酪農ヘルパーを続けていきたいと思います」と謝辞を述べた。



砂金会長による挨拶



謝辞を述べる堀口さん



優秀ヘルパー16名が受賞



新規就農では3名が表彰された



全国協会では酪農ヘルパーの職業認知度向上活動用のリーフレットを制作 酪農ヘルパーの仕事や酪農家の声などを具体的に紹介

酪農ヘルパーの要員確保に向けて採用活動をしていると、そもそも「酪農ヘルパー」という職業を知らないという場合があります。酪農に興味があり酪農の仕事に携わりたいと考えている人に対して、「酪農ヘルパー」がどんな仕事か知ってもらうことが必要です。

このような中、全国協会は平成30年度ALIC事業を活用し酪農ヘルパーの職業認知度活動に使えるリーフレットを作成し、新農業人フェアやイベントなどで紹介しています。

酪農ヘルパー実施県団体や利用組合の地域でのいろいろな活動で、このリーフレットを活用し酪農ヘルパーの職業認知度を向上させましょう。

リーフレットはカラー刷りでA4判4ページ（A3

二つ折りサイズ）です。リーフレットの活用を希望される方は全国協会までお問い合わせください。

●主な掲載内容

- ①酪農ヘルパーはどのような仕事か
- ②酪農ヘルパーの作業内容
- ③酪農家の声
- ④酪農ヘルパーのコメント
- ⑤酪農ヘルパーと酪農家・利用組合の関係
- ⑥酪農ヘルパーQ&A

●パンフレット中面：酪農ヘルパーと酪農家の関係や作業内容、酪農家の声などを紹介

酪農ヘルパーってなに？

平均労働時間 7.0 時間 / 1 日
その勤務形態をご紹介します。

酪農ヘルパーの勤務形態は、午前5時30分から9時まで作業をして、そのあと自由時間となり、また夕方4時から午後7時30分頃までの作業をする「朝夕出役型」(出役とは依頼された酪農家の牛舎で作業すること)と、夕方から作業が始まり夜7時30分頃に作業が終わって帰宅し、また朝5時から9時まで作業する「夕朝出役型」があります。ほとんど午前中の早い時間に仕事が終わわり、夕方までは自由時間となるので、夕方までの日中を自分の時間として有効に活用できるのも、この仕事の特長です。

(作業時間などは利用組合によって異なります)

■酪農家の声

「酪農ヘルパーさんは私どもにとって欠かせない、家族の一員です。」



酪農ヘルパーさんを最初に雇ったのは、母親が病気で入院したときでした。それからですね、酪農ヘルパーさんの手を借りるようになったのは、現在、私は、種作と畜産に取り組みしていますが、私の牧場では115頭ほどの牛を飼っています。これを母親と私も夫婦の4人で経営していますが、その仕事量は半端じゃないわけです。ですから酪農ヘルパーさんに来てもらったときは本当に助かりますよ。あっちこっちやらなければというのをお願いできるのですから。酪農ヘル

パーさんにとってはプロとしての仕事でしょうけれど、自分としてはやってみようという気持ちでお願いしています。なにせ、来てもらわないと仕事が回らないんですからね。これからは両親も自分も年齢を重ねていくし、子どもも大きくなって行事も増えていくでしょうから、お願いする回数も当然増えていくと思います。少しでも多くの酪農ヘルパーさんが、組合に登録してもらえたらと願っています。

那須塩原市 人見牧場 人見 信三

■酪農ヘルパーの作業内容 (例)



朝と晩に
それぞれ給餌作業、
牛舎清掃、搾乳作業
などを行います。



午前 9 時から
午後 4 時までは
フリータイム!



酪農ヘルパー歴 3 年
K・S さん

昼間の自由時間が
魅力です。

名前は酪農ヘルパーですが、プロの意識がないと、出役先の農家さんから信頼されません。ですから日頃の勉強が欠かせません。それだけにすべて任せると言ってもらって、うれいいます。自由時間が多いため、それをどう自分のために使うかがとても大切だと考えています。



酪農ヘルパー歴 7 年
J・T さん

いま経営について
学んでいます。

最初は肉体的な疲労がありましたが、それはすぐに慣れました。いまはプロとして、酪農についての知識と実践力がついてきたと思います。何年か先には、酪農家として、独立できると考えています。組合やまわりの方々の応援もあり、必ず実現させるつもりです。



酪農ヘルパー歴 2 年
M・T さん

生き物相手は
やりがい満点です。

農業に関係のない世界で育ちましたが、高校時代の総合学習で酪農体験をしました。動物好きだったので、酪農ヘルパーもいかなと、この世界に入りました。名前は酪農ヘルパーでも、組合の正規職員なので各種保険にも入っており、安心して働けます。

酪農ヘルパーについてもっと知りたい方は、(一社) 酪農ヘルパー全国協会ホームページをご覧ください。お手持ちのスマートフォンで下記QRコードから、酪農ヘルパー募集の情報を確認することができます。

◆iOS 端末をお持ちの方
Android 端末をお持ちの方

また、就活などの問い合わせについても、全国協会内に相談室を設けており、お電話でもお答えいたします。

一般社団法人酪農ヘルパー全国協会 Tel.03-5577-5135

酪農ヘルパーって なに？

酪農ヘルパーは
酪農家をアシストする
重要なサポーター

動物が好き

牛が好き

ミルクやチーズは

もっと好き！

一般社団法人 酪農ヘルパー全国協会



酪農ヘルパー

Q&A



Q.1 酪農ヘルパーになるには、特別な資格等が必要ですか？

特に必要ありません。ただ、仕事場である牧場への移動は車になりますので、普通自動車免許は事前に取得しておいたほうがよいでしょう。また、酪農経験、未体験は特に問われません。「やる気」と「元気」があるといいですね。

Q.2 酪農ヘルパーの身分はどうなっていますか？

基本的には全国にある利用組合の職員として採用されます。

各種保険なども完備されており、安心して仕事に就けます。各利用組合の酪農ヘルパー募集情報は、酪農ヘルパー全国協会のホームページで紹介しています。

Q.3 休みは決まっていますか？

酪農の作業は、主に朝と夕方なので、日中が自由時間となります。この時間を、自分の趣味や勉強に使ったり、家事や休息に充てる人もいます。月平均6日程度の休日としている利用組合が多いです。

Q.4 酪農ヘルパーはどんな仕事が体験できますか？

全国協会では酪農ヘルパーに関心のある酪農未経験者の方に、「酪農体験実習」を開催しています。詳しくは酪農ヘルパー全国協会のホームページをご覧ください。

Q.5 酪農に関する知識がなく、不安です。

酪農ヘルパーといっても単なる手伝いではなく、酪農家に代わって牛舎内作業をします。採用後、見習い期間があり、仕事に慣れるまで先輩酪農ヘルパーといっしょに仕事をします。このため、知識や技術を実践的に習得できます。また、就業1年未満の酪農ヘルパーに、初任者研修等も行っています。

酪農ヘルパーから酪農家へのステップアップ！

酪農ヘルパーには全く酪農の経験がなかった都会生まれの方もいるし、酪農家の後継者として様々な経営スタイルや感覚を学ぶために酪農ヘルパーをやっている方もいます。専任で仕事をしているうちの1割以上の酪農ヘルパーが、将来は独立して酪農経営に携わりたいという夢を持っています。

またこうした酪農経営に携わりたい希望者がいる一方、後継者不足で酪農経営を最適任者に移譲しようと考えている酪農家もあります。酪農ヘルパー全国協会では、新規就農希望者と経営移譲希望者の情報をデータベース化して、お互いに円滑な経営移譲を促進する試みがあります。

自分にあった経営スタイルで、酪農家へステップアップ。酪農ヘルパー全国協会は関係団体と連携して、その夢の実現を応援しています。



一般社団法人酪農ヘルパー全国協会 〒101-0047 東京都千代田区内神田2丁目5番3号 兎谷ビル2階
Tel.03-5577-5135 Fax.03-5577-5136 URL:<http://d-helper.lin.gr.jp> E-mail:info@d-helper.lin.gr.jp

(1811.1)

平成31年度酪農ヘルパー養成研修 開催日程のお知らせ

酪農ヘルパー全国協会は、高度な技術を有し酪農家に信頼される酪農ヘルパー要員の育成を図る目的で平成3年より酪農ヘルパー養成研修を実施しています。研修は毎年実施し、これまでに延べ3,300名余の酪農ヘルパーが受講してきました。

31年度の養成研修は初任者研修と中級者研修の2種類に分かれています。

初任者研修は研修Ⅰ（2週間コース）と研修Ⅱ

（1週間コース）があり、2週間コースは酪農の基礎知識を学ぶ講義と酪農家等実習のカリキュラムとなっています。1週間コースは座学講義が主体です。中級者研修は専門知識・技術のスキルアップを目指した研修となっています。

平成31年度の開催日程は下記のとおりです。

受講申請等については、酪農ヘルパー全国協会ホームページをご覧ください。

●平成31年度酪農ヘルパー養成研修 開催日程

研修会場	種別	初任者研修Ⅰ	初任者研修Ⅱ	中級者研修
		期間2週間	期間1週間	期間1週間
ホクレン訓子府実証農場 （北海道訓子府町）		5/13～5/24 10/21～11/1		
北海道立総合研究機構 畜産試験場 （北海道新得町）			4/15～4/19 9/30～10/4	
北海道立総合研究機構 根釧農業試験場 （北海道中標津町）			5/27～5/31	
北海道農業協同組合学校 （JAカレッジ） （北海道江別市）			2/17～2/21	1/27～1/31
蔵王酪農センター （宮城県蔵王町）		9/2～9/13		
全酪連酪農技術研究所 （福島県矢吹町）			6/10～6/14	
中国四国酪農大学校 （岡山県真庭市）		11/11～11/22		

※開催日程は平成31年3月現在のものです。変更が生じた場合はホームページ等でお知らせします。

就農相談イベント

「新・農業人フェア」 東京・大阪会場に出展

酪農ヘルパー全国協会は、平成30年度の1年間、農業関係の就業相談イベント「新・農業人フェア」のうち、東京・大阪会場に出展し「酪農ヘルパー」という仕事について紹介、そのやりがいや魅力をアピールしました。



ブースを出て、来場者に呼びかけ

新・農業人フェアは自治体や農業法人等が農業分野への就業と就農支援の相談を行う農林水産省後援の交流イベントです。来場者は参加費無料、入退場自由のため、漠然と農業に興味があるという方から、具体的に就職・転職先を探しているという方までさまざま、将来の情報収集のために高校生なども訪れていました。

平成30年度は東京会場（9月1日、1月26日）、大阪会場（12月22日）にブースを出展



ブースを訪れた来場者に、酪農ヘルパーの概要と魅力を紹介する

し、酪農家にとって必要不可欠な酪農ヘルパーの役割や業務、仕事の魅力を紹介、酪農ヘルパー要員確保のための活動を行いました。また新・農業人フェアには全国各地の利用組合や県団体等も出展し、酪農ヘルパー募集を呼びかけました。酪農ヘルパー全国協会では平成31年度も引き続き、フェアを通じて積極的な活動を展開する予定です。



全国各地の酪農ヘルパー利用組合も出展

平成 30 年度 酪農ヘルパー情報（平成 31 年 3 月発行）

一般社団法人 酪農ヘルパー全国協会

〒135-0064 東京都千代田区内神田2丁目5番3号 児谷ビル2階

TEL. 03-5577-5135

FAX. 03-5577-5136

URL : <http://d-helper.lin.gr.jp>

E-mail : info@d-helper.lin.gr.jp